

# 禅の友

2018  
9

—Zen no Tomo—



特集 お線香・ご焼香

禅めぐり 京都府宇治市「興聖寺」



## 子の来たり黙って薔薇の束を出す

千葉県 鈴木 英子

評 句の書いている情景はすぐに頭の中に描くことはできる。ただ、その子がどんな思いで薔薇の花束を持って来たのかを想像してしまう。久しぶりに会う母の特別な日に、恥じらいつつも花を手渡す子の顔が見えてきた。

## 着飾りていよよ毛虫の嫌はるる

島根県 藤江 堯

評 「着飾りて」という措辞がうまい。むろんこれは人間のことでなくて、毛虫が成長するほどに極彩色を纏まとうことを指している。それは毛虫にとって蝶となるための一大事なのだ、人はその直前の姿を嫌う。

◆改札を自在に抜けて燕飛ぶ

秋田県 小田嶋恭葉

◆新緑の中に突込む飯田線

長野県 下島 博

◆尾を垂れて風待ち顔の鯉幟

奈良県 鈴木 重雄

◆沙羅の花いつしか憂きの晴れてをり

愛媛県 井上 征郎

◆田を植うる周防小富士を掬すくひつつ

山口県 御江 恭子

◆大輪の朝顔ゆるる藍浴衣

千葉県 甲斐 勇

◆雨に濡れ濡れては妖し七変化

北海道 堺 隆

◆夏の雲父の背になり母になる

埼玉県 浦 宏之

◆鐘樓の標古ふりたり蟻地獄

北海道 大野 節子

◆岩煙草皇女の眠るやぐらにも

神奈川県 佐野 勇

## \*選者吟

降る星の蟬の骸むくろとなりしかな

俊 樹

## \*作句小見

八月も中旬をすぎてくると、蟬たちの骸が落ちているのをよく見かけるようになる。そのひとつひとつは前の夜に降ってきた星の残骸なのではなからうかと思つたのである。蟬となつての一生はそれほど短い。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

池の面に揺るる数多の杜若<sup>かきばた</sup>緋鯉よざりてその影みだす  
山形県 齋藤 弥生

評 杜若の花の濃青色（白も混ざっているかもしれない）が水面に映るその上を過りゆく鯉の背の緋色と、色彩感豊かに詠う。静謐な杜若と動的な鯉の対比も鮮やかである。

朝霧のまなかい晴れて深海魚のようなわが身を太陽照らす  
福島県 大槻 弘

評 霧の中に濡れて立ちながら深海にいるような気持ちになった作者、自らを深海に潜む魚に見立てている。太陽が照り始め間もなく霧は晴れてゆくだろう、その束の間をとらえて詩情が漂う。

◆ききなれぬ鳥の音さやかにひびきけり施食会の門ひろく  
大阪府 高畑 良圓

◆今頃は作務に励むや坐りおるや新到の孫を師は思い遣る  
鳥取県 東 香

◆鎌をもつ農家の嫁が茶筌持ち野点の話題みなかつさらう  
静岡県 末光 愛正

◆ロッキーマは犬が苦手の僕のことを知りつつ必ずあいさつに来る  
福岡県 三吉 誠

◆旅客機の音遠ざかり置き去りの吾のすぐ側かはづ鳴き出す  
岐阜県 後藤 進

◆川の面に映える桜の花の間を園児らのせて舟くぐりゆく  
北海道 吉田 洋子

◆双眼鏡出して眺める池の面に鳩の浮巢の卵かがやく  
東京都 野村 信廣

◆百年も藤の蔓を許しきて杉の古木がまとう紫  
秋田県 小松 紀子

◆糸垂れし風船うかれて歩むさま風はやさしめ今しまらくを  
愛知県 村上チオリ

◆わが姿もかくありなむと見送りぬ右足かばひ歩く媼を  
広島県 徳永進一郎

## \*選者詠

人と逢う約束反故になしし夢覚めて濁れる  
川の一筋  
ちづ

## \*作歌小見

野村さんの歌の双眼鏡のレンズが捉えた「鳩の卵の輝き」は作者の眼差しに加えて更に相乗効果を生む。村上さんは風を擬人化し命令形が効いている。年齢を重ねるかなしみに宿るやさしさが滲む徳永さんの歌、しみじみと味わい深い。



## 大本山永平寺



### 被差別戒名物故者追善供養法会

永平寺では、毎年九月に「被差別戒名物故者追善供養法会」を修行致します。「差別戒名」とは、他の檀信徒と比較して不当に差別され、おとしめられた戒名のことです。

仏の智慧や慈悲の教えを学ぶ僧侶であるならば、このようなことは決してあってはならないことです。そのため永平寺では、差別を受けたすべての皆さま方のご供養と、二度とこのような過ちを犯さない為に学びの場を設け、追善供養法会を営んでいます。

『修証義』というお経に、「懺悔滅罪」のお示しがあります。懺悔をすれば、罪は消えるというのです。しかし、一度犯した罪は決して消えることはありませんし、消すこともできません。

「懺悔滅罪」とは、既に犯してしまった罪は消えませんが、罪を懺悔し、もう同じ過ちを繰り返さないと深く反省し誓うことで、これから先がまっさらになるということです。永平寺では、毎朝のおつとめの回向えんこうでも「被差別戒名物故者諸精霊」と声に出して誓いを立てています。

お釈迦さまは、人はその生まれや職業や、宗教に関わらず、みな等しく尊い自己を持っていることをお示しです。向き合う一人ひとりをわが身にひきあてて、それぞれの内にある仏さまの真心を温め続けていきたいものです。



## 大本山總持寺



### 秋季彼岸会

九月の声を聞くと、暑さも凌ぎやすくなり、何となく心が穏やかになります。

二十日（木）から二十六日（水）は秋のお彼岸会です。

總持寺ではこの期間中、毎日午後一時から法話、引き続き二時から施食会法要を勤めます。法話では担当の布教師ほか、修行僧によるミニ法話も行われ、好評をいただいております。

特に、お中日の二十三日（祝）には江川禪師さまが大導師をお勤めになられ、広い大祖堂が大勢の参詣者でいっぱいになります。お彼岸会はもともと仏教徒が修行を積む期間でありますから、ご先祖さまに対し、供養やお墓参りをすると同時に、この機会に自分自身の心を静かに見つめ直すことも大切です。

また、両祖忌の日であります二十九日（土）午後二時より、曹洞宗主催により「祈りの集い」（自死者供養の会）が總持寺を会場に開催されます。

さて、四月より始まりました三松閣の改修工事が今月末に竣工の運びとなり、十月初旬より使用出来るようになります。

昨年からの紫雲臺と虎嘯窟の耐震改修工事も順調に進められており、来年十一月奉修予定の「中興独住第四世・石川素童禅師一〇〇回御遠忌」に間に合わせるべく境内に槌音が響いております。